

国連大学・ユネスコ国際会議

「共通の未来へ向かう道

—グローバル化した世界における高等教育の役割の変化」

(平成19年8月29日10時、国連大学ウ・タント国際会議場)

山本部長挨拶案

皇太子・皇太子妃両殿下、ファン・ヒンケル国連大学学長、松浦ユネスコ事務局長、ミスナッド首長妃殿下をはじめ、ご列席のみなさま、

グローバリゼーションが地球上のすべての人々びとに幸福を与えるものとなることを目指して始まったこの会議が、今回こうして第5回目を迎えることを心よりお喜び申し上げます。また、各分野において高い知見を有する方々が貴重な議論を展開されるこの国際会議が毎年日本で行われることを、大変幸せなことと感じております。

グローバル化した世界における高等教育の役割の変化というタイトルのもと、今回の会議で議論されるテーマを拝見いたしまして、その局面が実に多岐にわたることに改めて驚きを覚えております。これは、高等教育が担う役割の可能性と、我々の大きな期待とを示すものでありましょう。グローバリゼーションに伴う負の側面に対抗するために重要なのは教育であります。教育は人を作るものであり、なかでも、高等教育は社会の「知」の源泉であるからです。氾濫する情報を取捨選択し、幸福のために活用していくことができるのは、人の知力にほかなりません。さらに、情報通信技術（ICT）の急速な発達と普及の結果、知識が成長の主要な促進要因となる中で、高等教育の果たす役割

もこれまで以上に大きな意味を持つようになっていきます。

我が国は、途上国にとってのこうした高等教育の重要性と、途上国自身のニーズを踏まえ、初等、中等教育に加え、高等教育における支援と協力を強化してきています。

一例を申し上げますと、

1988年インドネシアにおいてスラバヤ電子工学ポリテクニクが設立された際に、我が国は、教材開発や教員育成、学校運営等を支援し、さらに校舎建設や教育・実験用機材の供与を行いました。日本の高等専門学校や大学教官の協力を得て更に支援が進められ、その成果普及のために1993年からアジア諸国の高等教育機関教員を対象とした第三国研修を通じて、スラバヤ電子工学ポリテクニクは電気系ポリテクニクのリーディング校として内外にその存在が広く知られることとなりました。また、同ポリテクニクは、日本をはじめ各国の大学がその技術を競い合うNHK ロボットコンテストで2001年に大学の部で優勝するという快挙を果たし、その後もアジア太平洋の国と地域から選抜された大学・工科大学の学生達が国を代表して競うABUロボコンの常連として活躍しています。

また、

2003年から実施しているアセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト（通称：SEED-NET）は、アセアン10カ国・19大学と日本国内11の支援大学による教育・研究協力ネットワークの構築および日本の大学との連携による参加大学の工学分野における研究・教育能力の向上を目的とした協力です。このプロジェクトは、先進途上国と後発途上国間での南南協力と、日本対アセアンという広域協力の2つの側面を有しています。SEED-NET 参加大

学の現場では、文化・宗教・言語・教育などあらゆる面で異なる背景を持った留学生が国を超えて議論し、認識を深め合っています。このネットワークは、単なる留学生支援ではなく、母国では最先端レベルの研究者である留学生たちが国際感覚を磨き、ASEAN 地域の一員として自己を認識することにより、地域の連帯が深められることも期待されています。

我が国のこうした経験をはじめ、各国が行っている努力、さらに今後取り組むべき課題等について、今回の会議では、率直な意見交換が行われることであらうでしょう。

最後に、日本にとって大切な国連大学とユネスコの両機関が、グローバル化についての真摯な議論を続けていらっしやることに改めて心より敬意を表し、今回の会議の成功をお祈りしまして、ご挨拶とさせていただきます。